

開府 名古屋の 街づくり

… 家康の 400 回忌に …

なごや古道街角案内人 池田 誠一

はじめに

- ・「名古屋城下」の特徴？
- ・家康の 400 回忌の年に



名古屋城(約36.1m)



姫路城(約31.5m)



大坂城(約30m)

1 名古屋 と 近江八幡

○ 名古屋城下 3つの自慢？

- ① 大手前の「碁盤割町人町」
- ② 海に接続する「堀川掘削」
- ③ 町ぐるみだった「清須越」

* 町名も移した

○ 近江八幡の城下

- ① 大手前に碁盤割の町人町
- ② 琵琶湖から八幡堀の掘削
- ③ 安土城下からの強制移住

* 町名も移した

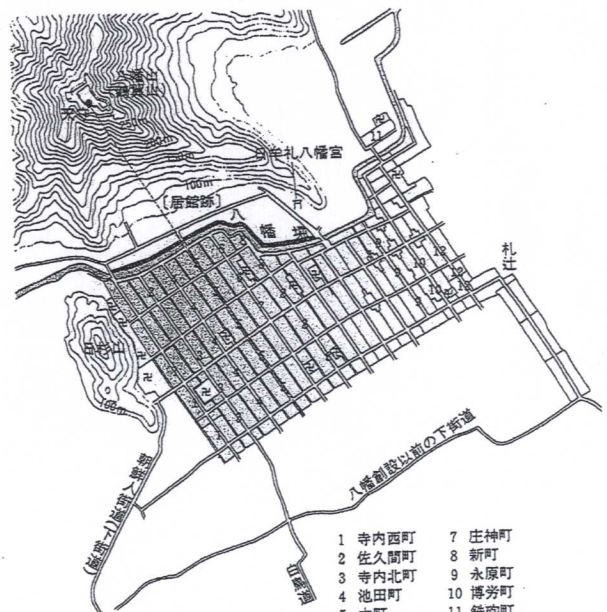
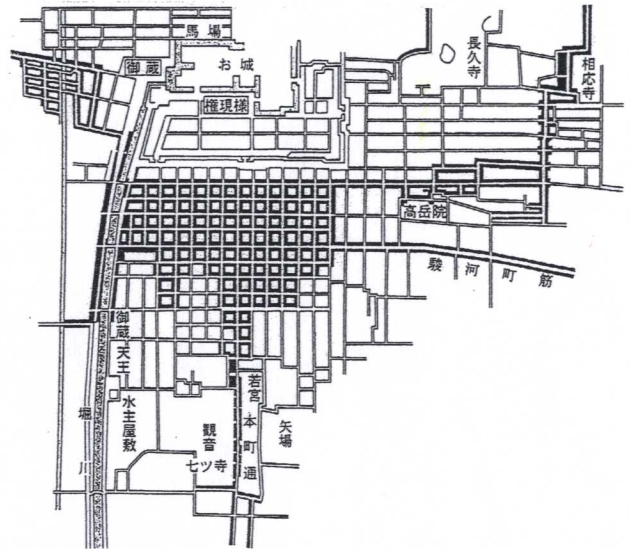
* 1585 年、羽柴秀次 18 才。43 万石

○ 当時の城下づくり

- ・ 商人、職人の取り込み
- ・ 水運の確保
- ・ 街道の引き込み

○ 名古屋城下の特徴は何か

- ・ 城下に込めた「家康の思い」はなにか？



- | | |
|--------|---------|
| 1 寺内西町 | 7 庄神町 |
| 2 佐久間町 | 8 新町 |
| 3 寺内北町 | 9 永原町 |
| 4 池田町 | 10 博勢町 |
| 5 本町 | 11 鉄砲町 |
| 6 玉ノ木町 | 12 慈恩寺町 |

2 城の変遷と都市の画期

○ 城と城下町の変遷

- 中世
- ① 山城へ
- ② 家臣団取込
- ③ 町人の取込
- ④ 平城へ
- ⑤ 町人の分離
- ⑥ 武家の分散
- ◎ 近世

時代	拠点・圏	主眼	リーダー	城下の形・機能	形成都市
○ 中世	屋敷				
①	山城	防御		集落 「兵士」	
②	↓	↓	信長	落 「家臣」	
③	戦 ↓	惣構	↓	街 「町人」	
④	国	平城	統治	秀吉 並	… 画
⑤	↓	惣構	↓	都 「身分」	計画
⑥	↓		家康	市 「開放」	↓ 期
● 近世	↓	↓	↓	近世城下町	↓

○ 「防御」と「統治」

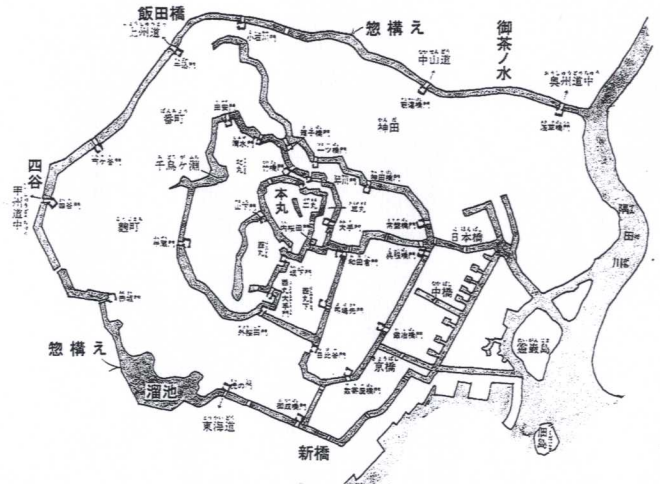
1 動いていた城

- 1 平野 → 山城
- 2 山城 → 平野
- * 平野の真ん中に

- ・ 小谷 → 長浜 1574
- ・ 三本木 → 姫路 1580
- ・ 林 → 松本 1585
- ・ 吉田 → 広島 1588
- ・ 岐阜 → 加納 1601
- ・ 岩出山 → 仙台 1601
- ・ 佐和山 → 彦根 1603
- ・ 月山 → 松江 1607

2 「惣構え」の流行

- 1 小田原戦 (1590)
- 2 秀吉の学習 → 大坂で
- 3 全国に普及
- * 堀(土塁) + 門



○ 都市の画期 1600±20

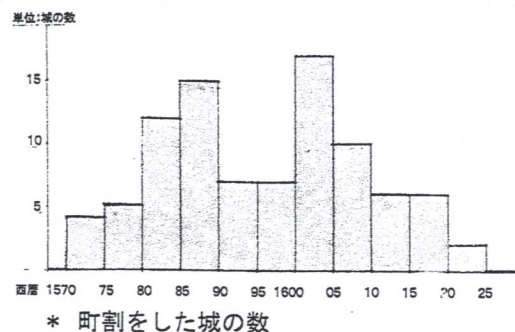
- ・ 中世都市の没落
 - ・ 元の衰退：城、社
 - ・ 戦乱被害：町、寺
 - ・ 強制移住：町、湊
- ・ 新領地への配置
 - ・ 新領統治、拠点建設
- 1615
 - ・ 元和一国一城令
 - ・ 一点固定、新改禁止
 - ・ 町人集約、政策集中

○ 名古屋の城下

- ・ 城下町の完成期 = 大外堀のない街

古代・中世都市

- 古代
 - ・ 大宰府 A
 - ・ 平泉 A
 - 中世政治
 - ・ 鎌倉 B
 - ・ 門前町：奈良 B
 - ・ 善光寺 A
 - ・ 湊町：堺 B
 - ・ 城下町：山口 B
 - ・ 駿府 B
- (ここで、A:廃止、荒廃、B:戦統)



3 名古屋城下

○ 名古屋の街割(都市計画)

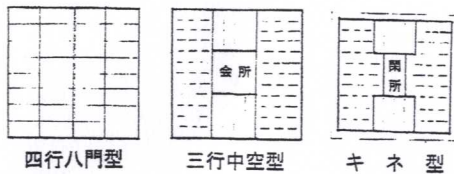
- ・ 武家地：三の丸、城の東、周囲
- ・ 町人地：碁盤割、街道沿
- ・ 寺社地：南寺町、東寺町
- ・ 交通・流通：美濃路、堀川等

○ 「碁盤割」の都市 古代中国から

- ① 古代：藤原京、平城京、長岡京、平安京
- ② 近世：大坂：江戸、駿府、名古屋

○ 碁盤割分析のむつかしさ

- ・ 区画：区画の割り方



四行八門型

三行中空型

キネ型

- ・ 寸法：区画の大きさ

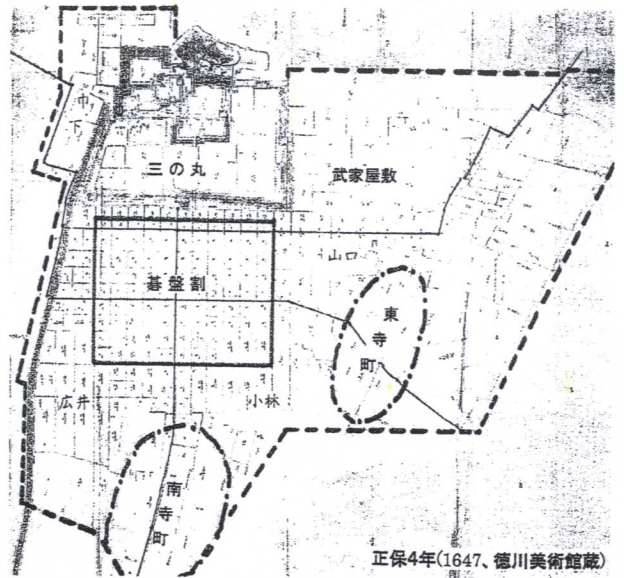
- <尺度>
- ① 田舎間(6尺)
京間(6.5尺)
 - ② 道路中心間
宅地内法間

* 道路幅は何間？

- ・ 都城：40丈(60間) 内法
- ・ 大坂：京間40間 内法
- ・ 江戸：京間？ 60間 ？
- ・ 名古屋
 - 案1：田舎間60間 心々
 - 案2：京間50間 内法

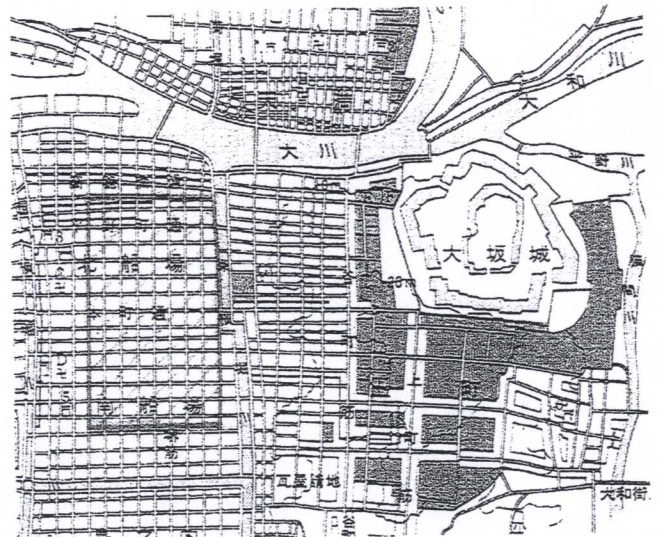
○ 碁盤割の意味

- ・ 中国の「都」→古代日本の「都」→「名古屋」

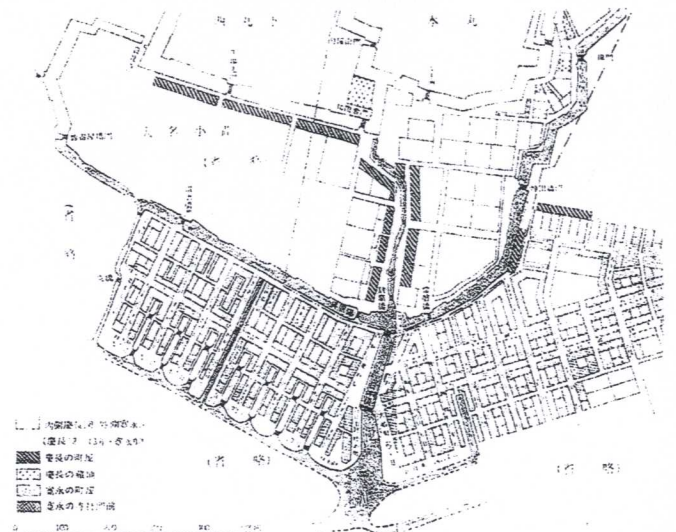


正保4年(1647、徳川美術館蔵)

大坂の碁盤割



江戸の碁盤割



4 家康 と 名古屋

○ 三英傑 の「平和」：3人とも「泰平の世」を求めた

- ・ 信長 「天下 布武」
 - ・ 秀吉 「豊臣の平和」
 - ・ 家康 「元和の偃武」
- * 七徳の「武」: 禁暴、治兵、保大、定功、安民、和衆、豊財(春秋左氏伝)
 * 豊臣平和令: 惣無事令、喧嘩停止令、刀狩令、海賊停止令(藤木久志)
 * 「偃武修文」: 王来自商、至干豊。 乃偃武修文(書経周書・武成編)

○ 家康 の 執念

- ・ 家康 19歳 1560年 桶狭間戦敗戦後 大樹寺登誉上人との問答
- ・ 生涯の旗印 岡崎時代から大阪陣まで 「厭離穢土 欣求浄土」
- ・ 偃武の宣言 大阪夏の陣の一か月後に 元号も「元和」と改めた

登譽上人と元康との問答

「師曰く檀主の危難あるは法門の厄に係れり 公慮りを為さゞれ吾身命を捨て 公を衛護せん 即ち緇素若干衆に命じて寺門を固めしむ 公大に異しむ時に師 白布を以って旗を製し之に題して厭離穢土欣求浄土と 是に於て師公に問ふて 曰く 君弱冠より戦場に向ふ其心唯だ敵を殺害するに在るか 公の曰く武人の 心實に唯然り 師曰く殺害何んの爲ぞ 曰く是れ他に非ず勇を振ひ功を樹て城 を抜き國を奪はんと何ぞ止だ其をしも云んや尚を竟に天下を領せん者なり 曰く竟に天下を領して是れ亦た何んするものぞ 曰く之を問ふ事を勞する事勿 れ普く武權を執るが如きは 則門業を興隆し子孫を榮耀し名を後世に擧げて 父母を顯さん而已 師しばらくして曰く天に得ざるの國を劫奪するは之れ奸盜 之所爲なり たとひ運を啓き一たび天下を領すとも非道にして得ば則ち何ぞ子 孫に傳ふる事を得ん 己れ獨り榮華に傲るとも猶を一陽の春夢の如し 命終の 後には必ず地獄楚毒の苦みを受けて何の益か之れあらん 公の曰く……」

(文献⑤)

○ そして、名古屋の街づくり

- ・ 「正々方々」の碁盤割
- ・ 「堀」と「門」のない街
- ・ 川には橋、道は真直ぐ
- ・ 繁盛のため道幅は狭く

○ 名古屋城下の意味 <世界の中で…>

- ① 都
- ② 困



山岡社八文庫「徳川家康」 (村上豊画)

<参考文献>

- ① 玉置豊次郎「日本都市成立史」(1974、理工学社)
- ② 渡辺京二「日本近世の起源」(2011、洋泉社)
- ③ 小野晃嗣「近世城下町の研究」(1993、法政大学出版局)
- ④ 高橋康夫編「図集日本都市史」(1993、東京大学出版会)
- ⑤ 「大樹餘蔭」(大樹寺)より 等